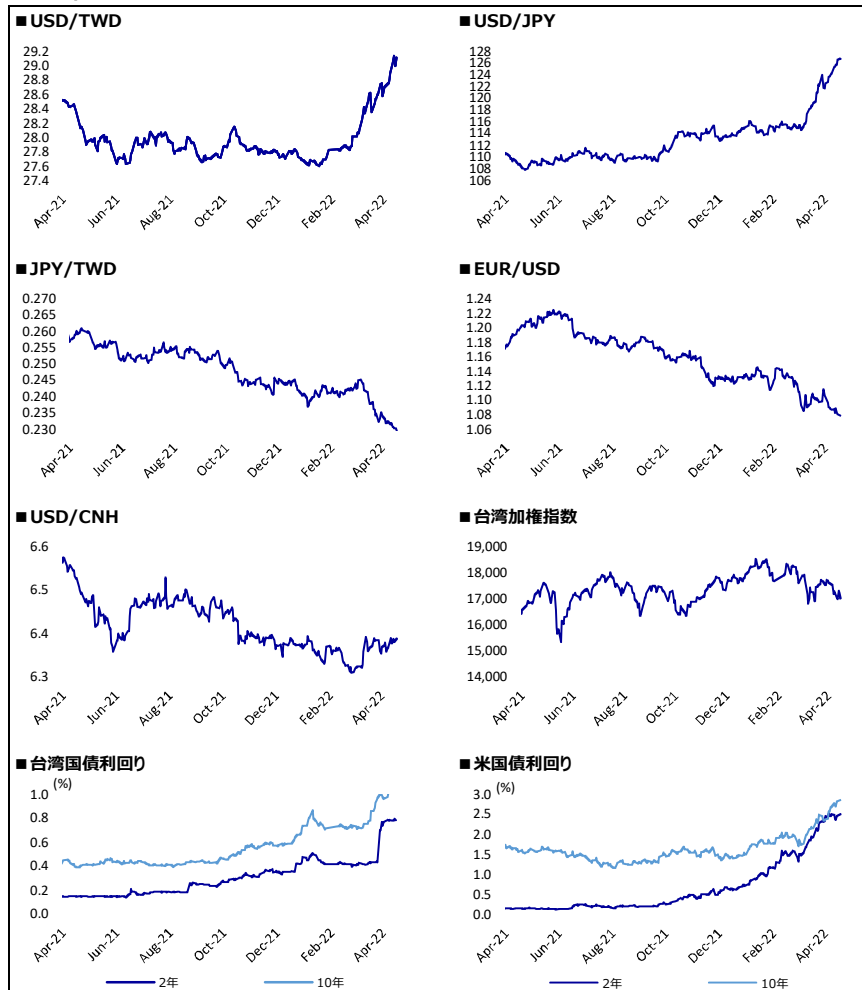


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初4/11は28.940でオープン後、米金利が上昇する中、台湾株が下落し、資金流出から台湾ドル売りが先行し、約1年半ぶりの29台に突入。4/12も資金流出から台湾ドル売りが先行し、輸入企業がドル買いを急いだこともあり、一時29.191まで上昇。4/13は台湾株が反発し、外国人投資家の売り越しも連続6営業日で止まり買い越しに転じると、台湾ドル買いが優勢に。また、楊台湾中銀総裁が立法院で「台湾ドルの為替レートの安定を保つために下落したら調整する」と発言もあり、一時29を割り込んだ。しかし、午後に入ると台湾国内投資家のドル買い等が入り、29台に戻した。4/14はドル全面高の流れが落ち着いたことや利上げた韓国等のアジア通貨が堅調に推移したこともあり、一時28.970まで下落。その後は薄商いの中、29.000ちようどを挟んで揉み合い推移。4/15は外国人投資家の台湾株売りで前日の大口配当金を受け、海外への送金が拡大したことに加え、国内投資家の送金もサポート材料になり上昇。最終的に先週比0.7%ドル高台湾ドル安の29.118で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は556.2億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は約20年ぶりの円安水準に。週初4/11は124.20でオープン後、米金利の上昇を背景にドルが買われると、直近高値であった125.10を突破し、一時125円台後半まで上昇。4/12は鈴木財務相の円安けん制発言を受けてドル円は低下する場面もみられたが、米長期金利が高水準で推移する中、125円台半ばで推移。その後発表された米3月CPIは前年比+8.5%と約40年ぶりの水準を記録したものの、コアは予想を下回ったことからインフレへの過度な警戒感が和らぎ、米金利が低下するとドル円も一時124.76まで下落。4/13は125円台半ばの狭いレンジでの推移していたが、黒田日銀総裁の「現在の強力な金融緩和を粘り強く続ける」という発言を受け、日米の記入政策の違いが改めて意識されると円売りが強まり、ストップロスを巻き込みながら急上昇し一時126.32をつけ、2002年5月以来の水準に。一巡後は125円台半ばまで戻したものの、4/15にはイースター休暇で海外の主要市場が休場で薄商いの中、126.70をつけて直近高値をさらに更新。最終的に先週比1.8%ドル高円安の126.56で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：28.900-29.400
足許の米金利の上昇は続いており、台湾ドルが売られやすい環境は続くであろう。輸出企業も様子見をしており、ドル売り圧力が強まらない中、上値を試す展開を見込む。

■ USD/JPY 予想レンジ：125.50-128.00
先週は約20年ぶりの円安水準となったが、足許円が買われる材料が見当たらない中、直近高値の更新を続けることになるであろう。

今週の予定

4/18 (MON)	中国Q1GDP、中国3月鉱工業生産、中国3月小売売上高
4/19 (TUE)	米3月住宅着工・許可件数
4/20 (WED)	日3月貿易収支、台湾3月輸出受注、米ベージュブック
4/21 (THU)	米4月フィラデルフィア連銀景況指数
4/22 (FRI)	台湾3月失業率

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。